

早め早めの備えがカギ

# シニア期準備ガイド for パグ

元気だったパグも、シニアになると健康トラブルが続出するもの。

加齢とともに起こりがちな問題とその対策&  
シニア・パグ飼い主さんの事例を紹介します！

photos\*パグっこ89俱楽部写真班(P83)

これら3つのトピックから、シニアになつても健康でいるために必要なことを見ていきます。

- 免疫系トラブル対策
- 肥満による負担の軽減
- 脳の活性化

パグはもともと呼吸器や皮膚などの病気にかかりやすいことで知られていますが（P26）参考照、シニアになつて体が衰えることでその発症率はさらに上がり、症状も重くなります。シニア期で健康を保つには、若く健康なうちから生活習慣を見直して、持病があるならきちんと治療をしておくことが重要。そうした積み重ねがあつてこそ、愛犬のシニア・ライフを充実したものにできるのです。

とくに注目したいのが、次の3つです。

## シニア期への備え



お話：平林雅和先生

獣医師、オールペットクリニック院長。犬猫を中心に、飼い主とペットとの関係を重視した診療を行っています。虫類などエキゾチック・アニマルも得意とする。<http://all-p-c.com>

## 免疫系トラブル対策

### ◆加齢による免疫系トラブル増加

食物アレルギーや犬アトピー性皮膚炎の発症



アレルゲンの特定・治療



加齢とともにこれまで平気だったものが  
アレルゲンになったり、症状が悪化する（免疫機能の衰え）



トラブルの増加

免疫とは、犬の体内にある**リンパ球（白血球の一種）**がウイルスなどの外敵や異常な細胞を攻撃し、体を守る仕組み。アレルギーやアトピーは、この仕組みがうまく機能せず過剰な反応をすることで起こる免疫系のトラブルです。

パグは食物アレルギーや犬アトピー性皮膚炎が多い犬種ですが、**シニアになるとその危険度が高くなる**ということは意外と知られていません。免疫系も年を取ると正確に機能しにくくなり、過剰反応をする対象＝アレルギーの原因となる**アレルゲン**が増えています。

対策

まず、すでに発症している食物アレルギーや犬アトピー性皮膚炎のアレルゲンを特定し、**適切な治療を**して**悪化しないようにする**のが大前提（P30～参照）。その上で、サプリメントなどで腸内の免疫細胞のバランスを取り、食事で特定のたんぱく質源ばかり摂らない（一定量を超えると発症の恐れがある）といった対策で、アレルギーを起こしにくい体を作りましょう。

## 肥満による負担の軽減

### ◆肥満による体への負担

肥満



呼吸器や心臓、骨、関節に負担がかかる



長期間負担が続くと、臓器や骨・関節に負担が蓄積する



シニア期になり体が弱ると、負担がかかっていた部分にトラブルが起こる

専門ダイエットより、  
毎日の習慣が  
大事だよね~



太りすぎが体に良くないのはどの犬種でも同じですが、呼吸器が弱いパグは呼吸困難につながりやすいので、特に注意が必要です。さらに**心臓や関節・背骨・消化器に負担がかかる**ため、肥満状態が長期間にわたると少しづつ全身にダメージを受けます。ダメージを受けてそれぞれの臓器の機能が阻害されると病気にかかりやすくなるため、結果的に寿命を縮めることにもつながります。

対策

愛犬の体質や健康状態を見ながら獣医師と相談し、**バランス良くよりにくい食事計画**を立てて実践してあげてください。また、骨・関節や呼吸器への負担にならない程度の運動を日課にするのもおすすめです。

## 脳の活性化

### ◆脳を刺激することによる変化

脳に刺激を与える(新しい遊びやトレーニング、犬同士の交流、飼い主さんとのスキンシップなど)



脳が活性化される



全身に良い影響が及ぶ(関節が動かしやすくなるなど)



老化防止につながる

「もう年だから」と  
あきらめず、新しいことに  
挑戦してみて！



シニア期の犬は活動量が減り、寝て過ごす時間が増えてきます。しかし、そこでそつとしておくと逆効果。脳に新しい刺激を与えない老化が進んでしまいます。視覚や聴覚が弱くなっていても、嗅覚や触覚などほかの感覚を通して脳に働きかけることは可能。そうやって**脳を活性化させることで、全身の衰えを遅らせ**ることができるのです。

対策

獣医師と相談して、体に負担をかけずにできることを探しましょう。ニオイを使ったゲームや新しいコマンドのトレーニング、プールでの水泳、マッサージなどのほか、視力に問題ない場合はお散歩のコースを変えるなどでもOKです。



『銀次郎』(10歳／♂)

感情がすぐ顔に出る、素直なパグ男子。シニア期に入ってから、ちょつぱり甘えん坊になったそう。7歳のときに変形性股関節炎を発症。9歳で鼻腔内腺がんと診断された。



部屋の一角にある銀次郎専用のスペース。関節への負担軽減のために、カーペットを敷いています。

## シニアのお宅・実体験 に学ぶ

シニア・パグと暮らす飼い主さんに、生活の工夫やデイリーケアについてインタビュー。愛犬とのシニア・ライフのヒントにしてくださいね。



体力と免疫力維持のために、外出することも多いそう。最近の銀次郎は、ドライブがお気に入り。



2017年4月のパグオフ会では、ご長寿パグとして表彰されました。当日は、ほかのパグとの交流も楽しんだそう。

あやちさんの  
ブログはコチラ!

▼  
パグ生活。  
<http://ginchi.blog99.fc2.com>



鼻腔内腺がんと診断されてから、食べものの好き嫌いが激しくなった銀次郎。しかし食べること自体は好きなので、おいしいものを前にすると大はしゃぎ！

「まず、睡眠時間が長くなつたと感じたんです。それに、お散歩やごはんのとき以外はとても静かで、『聞き分けが良くなつたなあ』とも思いました」  
7歳のときに変形性股関節炎を患うなど、シニアになるにつれて健康トラブルも増えた銀次郎。2016年の秋口に急に体調が悪くなり、食事を受け付けなくなつたそう。動物病院に行つたところ、同年10月に鼻腔内腺がんとの診断を受けます。現在は週に3回、動物病院で痛み止めの注射や栄養補助の点滴を受けながら治療中のことです。

「鼻血が止まらなかつたり、目や口から出血することも多いんです。具合が悪い日はごはんをまつたく食べず、水すら飲まないことも。9kgあつた体重は一時期6・1kgまで減つてしまつて……」

獣医師に相談しながら、さまざまなフードやおやつを試してきたあやちさん。銀次郎が食べたいそぶりを見せたものは、(犬が食べてOKなものなら)なるべく与えるようにしていました。そのかいあってか銀次郎の体重も徐々に増加してきました。「調子がいい日は、お散歩を楽しんでいます。治療や健康管理は大変ですが、残りの時間を楽しみながら、一緒に過ごしていきたいですね」

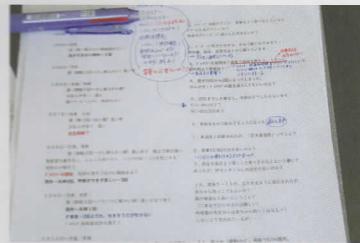
「今日も楽しかったね」と  
言える毎日を

Case 1 ◀

## 思考錯誤の闘病生活



失神したときや、何か異常が起きたときに気付けるよう、ウエアには小さな鈴を装着。鈴の音が聞こえたら、すぐに田中さんが様子を見に行きます。



いつどんな便が出たか、何回失神したかなど、健康に関する情報を毎日記録した“来幸レポート”。次回の通院時、獣医師にしっかりと状態を伝えるために欠かせないツールです。

## Case 2 ◀

### 細やかなケアが支えるスローライフ



『来幸』(15歳／♀)

若いころから、お散歩より室内で過ごすのが好きだったマイペース女子。趣味はキッチン内を歩いて回る“キッチンパトロール”。9歳ごろから病気がちになり、肥満細胞腫の手術を2度経験。現在は甲状腺機能低下症の治療中。

田中さんの  
ブログはコチラ!  
▼

パグ犬こゆきのほんわか日記  
<http://ameblo.jp/koyuki5>



下痢に悩まされ、トイレ以外のところで排泄してしまうことも増えた来幸。畳の上にビニールを敷き、その上にトイレシートを並べることで対処しています。



最近では、獣医師に相談した上でフードのトッピングの手作りにチャレンジ。食事中はつねにそばにいて、反応を見ながら少しづつ食べさせます。



東京都の田中家で暮らす『来幸』(15歳／♀)。9歳で発症した原因不明の咳のような症状を抱えながら、肥満細胞腫をはじめとする病気を乗り越えてきました。

「13歳ごろから寝ている時間が長くなり、私や主人が帰宅しても興味を示さなくなってしまった……。田中さんはなくなつて、ものにぶつかることが増えましたね」と、田中さん。

15歳を過ぎると、頻繁に嘔吐するようになつたそう。その苦しさからゆっくり眠れず、ベッドの中で何度も体勢を変えたり、最近では「起き出してふらふらと歩いてはまた戻る」を繰り返すようになりました。2017年の元日に突然失神してから、状態はますます悪化。4か月が過ぎた現在は咳のような症状を緩和させる方法を探りつつ、甲状腺機能低下症の治療を行っています。

「目が見えないので、ぶつかったりケガしないよう家具などには緩衝材を巻き、突然の下痢で床が汚れないよう、トイレスペースも広げました。ごはんは少量ずつ容器に足し、ゆっくり食べさせています」

田中さんご夫妻のケアを受け、闘病生活を続ける来幸。お2人は愛犬に対する思いを、「人も犬も、年を重ねれば体の機能が衰えたり、病気がちになるのは同じこと。一緒にいられる幸せに感謝しつつ、できるかぎりのケアをしてあげたいですね」と語つてくれました。

### 飼い主として 病気としっかり向き合う

背中が丸くなり、腰回りが細くなったり大吉に小川さんが手作りしたウエア。体にフィットして不快感がないよう、腰のあたりを絞る縫い方をしています。



筋力キープのため、朝夕2回の散歩は欠かせません。夕方の散歩後のおやつタイムが大吉の楽しみ！



『大吉』(15歳／♂)

散歩も食事も大好きな“気のいいおじさん”。10歳で前立腺肥大を発症し、手術で回復。13歳のときに色素性角膜炎が原因で失明。14歳で肝臓を患ったが、投薬と食事療法で改善し、現在は体調も安定している。



### Case 3 ◀

## 愛情たっぷりの穏やかな日々



ワイヤーネットにスタンダードを取り付けた簡易的な仕切り。段差があるところや危ないところに近付かないよう、この仕切りを活用しています。



小川さんの  
ブログはコチラ!  
▼

大福日和  
<http://daifukubiyori.jugem.jp>

ふとした拍子に咳き込むことも増えたため、首やのどに負担がかからないよう、台を使ってフードボウルの位置を高くしています。

大吉（右）と、2017年1月に亡くなった大吉の息子の『福助』（享年12歳／♂）。2頭は小川さんが運営する、犬用ウエアショップ「おが和んずSHOP」の看板犬兼モデルを務めていました。



飼い主である小川さんとともに、宮城県で暮らす黒バグの『大吉』（15歳／♂）。若いころは病気知らずでしたが、8歳あたりからたびたび健康トラブルに見舞われるようになりました。そんな大吉の外見や行動にシニアらしさを感じ始めたのは、13歳を過ぎたころだったそう。

「耳が遠くなってきたと感じたのが最初でした。それでもまだ大丈夫だと思っていたんですが、若いころから進行していた目の色素沈着が原因で、2015年の秋には完全に目が見えなくなつて……。それを境に背中が丸くなったり白髪が増えたりと、見た目も老け込んでしまいました」と小川さん。

散歩中も突然歩くのをやめたり、同じところをぐるぐると回つたりするように。しかし小川さんは無理に歩かせることはせず、ある程度自由にさせてい るそうです。

「目が見えない大吉の代わりに、散歩中でもつねに周囲の様子には注意しています。大吉も私を信頼して、元気に歩いてくれるんだと思います。家の中ではできるだけ床にものを置かない、家具の位置を変えないといったことに注意。大吉のそばを通るときには必ず体にふれて、『ママはここにいるからね』と伝えています」

大吉が余生をのんびり楽しく過ごせるよう、小川さんは今日も献身的なサポートを続けています。

## シニア期を見守る 家族の温もり



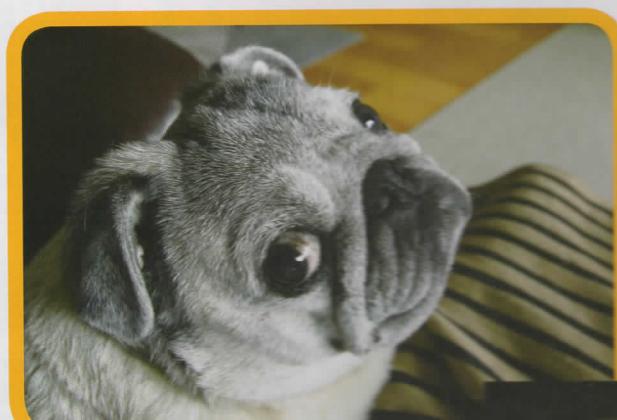
食べものを前にしたときの  
目ヂカラのすごさ！ ひな  
ママさんいわく、「食いしん  
坊度はまったく衰えない」  
そうです。



Case 4



弱っている足腰に配慮して、ソファーや寝室のベッドの近くにはステップを設置。



### 『ひな』(10歳／♀)

喜怒哀楽の表情がわかりやすいキュート・ガール。9歳のときに変形性骨関節症と診断される。10歳目前で乳腺腫瘍と診断され、切除手術を経験。現在は大きな病気もなく、体調も良好。



ひなの10歳の誕生日を祝うパーティー。仲良しの友だちや、自分の子どもたちに囲まれてひなもうれしそう。

家にいるあいだは寝ている  
ことが多くなったひな。娘の  
もなと一緒に犬用ベッドに  
入っていふことが多いそう。

ひなママさんの  
ブログはコチラ!

ご長寿の秘けつは  
日ごろの健康チエツク

東京都在住のひなママさんの愛犬「ひな」(10歳)  
お誕生日おめでたし! おめでたし! おめでたし!  
おめでたし! おめでたし! おめでたし!

現在、1日のほとんどの時間を「通勤」するというひな。しかし、仲良しのバグ友だちの家やお気に入りの散歩コースに行くとわかると、途端に動きが機敏になるのだとか。そんなときは若いころのパワフルさを見せるひなですが、やはり日ごろの健康チェックは欠かせません。

「スキンシップも兼ねて、毎日全身をこまなくさわっておきます。昨年はそのおかげでしこりを発見し、早期に乳腺腫瘍<sup>しゆよう</sup>の切除手術ができました。ひなの様子を見るといつもより呼吸が速くて、抱いたときの体温も高いことがあって……。『これはおかしい』と動物病院を受診した結果、肺炎と診断されました。これも早めに治療できたおかげで大事には至りませんでした。愛犬のふだんの状態を肌で感じておくことの大切さを思い知りましたね」

シニア期には、病気の早期発見・早期治療が重要  
毎日のふれ合いも立派な健康チエックとなりそうです